

「高等学校等における海外留学に関する危機管理ガイドライン」の策定に関する検討会
(第1回) 議事要旨

- 事務局から、協力者の紹介、検討会の運営、高校生留学の現状、ガイドラインの構成イメージ等について説明がされた。
- 上記説明後、意見交換がされた。

(主な発言内容は以下の通り)

- 基本的な考え方として、自分の身は自分で守るという心構えを持たせることが必要。
- 危険を察知する能力をあらかじめ育てておくことが必要。
- 単独行動、独り歩きによって様々な危険に出会うことを伝えることが必要。
- 自分の所在を常に関係者、ホストファミリーに知らせる習慣をつけておくことが必要。
- 現地で知り合った交友関係は、関係者やホストファミリーに知ってもらうことが必要。
- 留学先や渡航先の国の法律や社会ルールを知って行動することを学ばせることが必要。
- ホストファミリーの悪口、友達の悪口、誹謗中傷などをネットに載せることでプライバシー侵害や名誉棄損、訴えられる事にもなりかねないため事前の指導が必要。
- 健康面の自己管理が出来るようしておくことが必要。
- 普通のビジネスマンは訪れないが、高校生は行く可能性もある地点を事前に把握しておくことが必要。
- マラリアなど感染症の発生状況に関するサイトもあるので、そうした情報を盛り込めると良い。またこうした情報は末尾にまとめるより、関連部分に埋め込むのが良い。
- 留学生の安全に関する指導は、受け入れ側と一体となって一緒に安全を守らなければいけないという観点が重要。
- 派遣側もすべての参加生にとって共通する基本的な安全の注意事項を徹底し、確認することが必要。
- 受け入れ側が何を考えてどのように生活しているか真剣に耳を傾けて、行った先で不安に思うことは躊躇せずに確認することを指導していくことが必要。
- サポート体制は、送り出す側と受け入れる側がタッグを組んで体制を整えることが重要。
- 安全を守るために、日本の価値観だけで判断しないことが必要。その国地域で長く暮らしている人たちの感覚を大切にする、信ずる、そういった人たちの話を聞く指導が必要。
- コロナに関する安全管理、健康管理が必要。
- 様々な社会問題、ドラック、アルコールの乱用等にも関与する可能性があり、こうした点を盛り込んでいくことも必要。
- 相手の国のことをしっかりと知る事、自分の意見を伝えることが必要。また、しっかりと考えて、分からない場合は確認し、危険と思うことは自分で回避することが必要。

- 管理体制として、プログラムの実施、中止の判断、対応方法等をマニュアルであらかじめ整備しておくことが必要。
- 緊急連絡網について、定期的に連絡網が流れるか確認が必要。
- コロナ対応について、ワクチンや陰性証明書の必要性など事前教育が必要。国によって飛行機に乗れない事例も起きている。
- 海外旅行保険は、原則として全員同じものに入ることが必要。
- 感染症に対する心得は具体的に示しておくことが必要。
- 留学先での日本人同士のトラブルやローカル情報を取り上げることも必要。
- 第3次学校安全の推進に関する計画にある、自ら適切に判断し、主体的に行動できるような安全に関する資質能力を身に付ける視点も必要。
- 危険を予測して回避できるような力、どういう事柄やどういう内容が危険かというリスクを安全教育という視点でどのように学ばせるのかという学習方法も大事。
- 例えばワークショップ等において、危険を予測したり、考えたり実際にコミュニケーションを取ってみるといったような学習、ホストファミリーに色々聞いて見る、現地で色々な情報を収集して見るなど主体的に学んでいけるような体験的な事前学習を行うことが重要。
- 現地の受け入れ先との連携体制、管理面での連携体制は重要。
- 学校における危機管理マニュアルの中には、事故が起きた時の対策本部の在り方、校内組織、学校外との連携体制を構築が記載されており、既存の学校にある組織体制に海外留学がある場合はどう対応するか具体的に検討することで、より実効性のある体制が出来るのではないか。
- 学校安全は事前の危機管理、発生時の危機管理、事後の危機管理の3段階を踏まえており、こうした要素を本ガイドラインに含めても良い。
- 校外活動では、生活場面、活動場面にどういったリスクがあるかを把握しておくことが、管理面や教育面でも重要。
- トラブルが生じないようにするための予防的措置が重要。
- 本ガイドラインに基づき、各学校で具体的な危機管理、安全対策できるマニュアルの策定やマニュアルに基づいた訓練、安全に関する学習機会の設定が必要。
- ヒヤリ・ハットの状況など事例を含めても良い。
- 人に言えないような悩みなどメンタルヘルス面で、相談出来る案内を掲載しても良い。

(以上)